令和7年2月

定例総会議事録

松本市農業委員会

令和7年2月 松本市農業委員会 定例総会 議事録

1 日 時 令和7年2月28日（金）午後1時30分から午後3時40分

2 場 所 松南地区公民館 大会議室

3 出席委員

(1) 農業委員 25人

1番	百瀬 泰紀	2番	小林 節夫
3番	柳澤 一向	4番	武井 茂善
5番	中川 敦	6番	久保 節夫
7番	松田 和久	8番	河西 穂高
9番	丸山 茂実	10番	矢嶋 壽司
11番	御子柴清市	12番	塩原 秀俊
13番	田中 悦郎	14番	細江 弘光
15番	塩原 俊昭	16番	松尾 英志
17番	濱 博	18番	齋藤 勝幸
19番	奥原 邦義	20番	倉科 孝明
21番	塩原 至	22番	古畑 英俊
23番	二村 喜子	24番	上條信太郎
25番	山田 久子		

(2) 推進委員 8人

推1番	原 弥生	推2番	小笠原鉄夫
推3番	梶原 知子	推4番	古家 豊和
推5番	百瀬 文仁	推8番	石川 克彦
推16番	丸山 貴久	推18番	百瀬 一郎

4 欠席委員

(1) 農業委員 1人 26番 村山さえ子

(2) 推進委員 10人

推6番	赤羽 武史	推7番	上杉 壽和
推9番	横山 竜大	推10番	手塚 稔幸
推11番	中野 浩史	推12番	横山 泰治
推13番	清水 麻未	推14番	原口 知明
推15番	平林 章司	推17番	太田 稔

5 議 事（農地に関する事項）

(1) 議 案

- ア 農用地利用集積計画の決定の件……………（議案第299号～第302号）
- イ 農用地利用集積等促進計画案について意見聴取する件……………（議案第303号）
- ウ 農地法第3条の規定による許可申請許可の件……………（議案第304号～第313号）
- エ 農地法第4条の規定による許可申請承認の件……………（議案第314号、第315号）
- オ 農地法第5条の規定による許可申請承認の件……………（議案第316号、第317号）
- カ 相続税の納税猶予の適格者証明願承認の件……………（議案第318号）

キ 引き続き農業経営を行っている旨の証明願承認の件

……………（議案第319号、320号）

(2) 報告事項

- ア 農地法第18条第6項の規定による合意解約通知の件
- イ 農地法第3条の3第1項の規定による届出の件
- ウ 農地法第4条の規定による届出の件
- エ 農地法第5条の規定による届出の件

6 議 事（その他農業委員会業務に関する事項）

(1) 協議事項

「松本市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の見直しについて

(2) 報告事項

- ア 山林化農地に関する非農地判断の結果について
- イ 令和6年度農地所有適格法人の要件等確認結果について
- ウ 令和7年度農業委員会行事予定（案）について
- エ 主要会務報告並びに当面の予定について

7 その他

8	出席職員	農業委員会事務局	局 長	小岩井 淳
		//	局長補佐	上條 仁
		//	係 長	草田 崇博
		//	主 任	藤井 勇太
		//	主 事	田中 瑞恵
		//	事 務 員	丸山 裕子
	農 政 課		課長補佐	川村 昌寛
		//	主 任	望月 敬弥
		//	主 事	城生 涼風
		松本農業農村支援センター	主 査	山戸 香織

9 会議の成立 農業委員会等に関する法律第27条第3項により成立

10 会長あいさつ 田中会長

11 議長就任 松本市農業委員会総会会議規則第3条により田中会長が議長に就任

12 議事録署名委員の指名及び書記の任命

〔議事録署名委員〕 16番 松尾 英志 委員

17番 濱 博 委員

〔書記〕 上條局長補佐、草田係長

13 会議の概要

議長

次第に沿って、まず農地に関する事項から議事を進めてまいります。
初めに、議案第299号 農用地利用集積計画の決定の件について上程いたします。
別冊の総会資料をお手元にご準備ください。
それでは、議案に掲載されている新規就農者について、事務局から説明をお願いします。
丸山事務員。

丸山事務員

農業委員会事務局の丸山です。
今月の新規就農者の説明をさせていただきますので、別紙資料の表紙の裏面をご覧ください。
今月は、個人の方1名と法人で一団体でございます。
1番、〇〇様、住所地は新村地区、農地所在地は和田地区、1筆、7.92アールを借入れ予定です。就農目的は出荷等を行う営農で、栽培予定はブドウと伺っております。販売品目はブドウ、出荷先はJA、販売量は約100キロ、販売額は約30万円を見込んでいらっしゃいます。農業従事者はご本人お一人、農業経験としては、和田地区で5年ほどブドウの栽培をされていたそうです。借り入れた農地へは約1キロ、自動車ですら5分ほどかかります。JAより知識、技術を習得し、今後は現状維持を希望されています。議案は2ページ、26番に該当いたします。署名は新村地区、細江農業委員、手塚推進委員、和田地区、塩原農業委員、中野推進委員にいただいております。
2番、〇〇様、法人所在地、農地所在地ともに和田地区、1筆、16.11アールを借入れ予定です。就農目的は出荷等を行う営農で、栽培予定はネギと伺っております。販売品目はネギ、出荷先はJA、販売量は約1,500キロ、販売額は約60万円を見込んでいらっしゃいます。農業従事者はお一人、農業経験としては、和田地区で8年ほどネギの栽培をされていたそうです。農業法人より知識、技術を習得し、今後は経営規模の拡大を希望されています。議案は7ページ、農用地利用集積計画一覧表第18条2項6号関係の1番に該当いたします。署名は和田地区、塩原農業委員及び中野推進委員にいただいております。
今月の新規就農者は以上です。お願いいたします。

議長

ありがとうございました。
ただいま新規就農者の説明に対しまして地元の委員から補足説明をお願いします。
1番、2番通じまして、塩原委員、お願いします。

塩原（俊）農業委員 まず、1番の〇〇さんでありますけれども、住所地は新村ですけれども、圃場和田になりますので、私のほうから報告させていただきます。

この〇〇さんは、年齢が73歳ということで、ちょっとご高齢なんですけれども、実は建築関係、板金業をずっと長く営んでおられて、その板金

業のほうの経営を息子さんに引き継いだということで、その後、かねてから非常に興味があったブドウ栽培を始めてみたいと、こういうことで、意欲的に取り組まれるお話を伺ってきました。

ブドウというのは、苗を植えてから成木になるまで4、5年を要するというので、78歳ぐらいになっちゃうんじゃないかということで、ちょっと心配をしたんですけれども、ご本人は非常に意気揚々とやる気満々というようなお話をお聞きしてきました。

技術的にどうかなということで、ちょっと心配していたんですけれども、この〇〇さん、出身が生坂村だそうです。生坂村のブドウ栽培の研修制度に参加して、ブドウのほうの栽培の技術、知識は持っているということでした。

それから、ハイランドの今井支所の果樹を担当の技術員の方ともしっかりコンタクトを取って、その指導を受けながらやっていきたいということで、もう既に雨よけの立派な施設と申しますか、そういったようなものも造られておまして、あとはブドウの苗を植えるだけというような状態の圃場も見ってきました。

ご本人は、年齢は高齢ですけれども、非常に意欲的にやっついこうという意思を示しておりましたので、そういうことなら、末永く見極めていきたいと、こんなようなことで感じてきました。

それから、議案番号2番の〇〇の件ですけれども、こちらは和田で稲作を中心とした一番大手の〇〇というところがあるんですけれども、その〇〇の経営者、〇〇さんという方とその息子さん2人の3人で〇〇というところをやっているんですけれども、その次男の方が今回、水稻経営から独立して、新たな事業展開をしていきたいということで、白ネギだとか、ブロッコリーだとか、サニーレタス、そっちのほうのものを始めたいということで、〇〇からのれん分けというふうな形で始めるということで計画をしているようです。

既に年齢は、〇〇さんの〇〇さんですけれども、37歳ということで、非常に若くて、非常に意欲的に新規部門を拡大していきたいと、こういう意欲を持っておられる方ですんで、全然問題ないかなというふうに思っています。

以上です。

議長

ありがとうございました。

続きまして、農政課から議案の説明をお願いいたします。

城生主事。

城生（農政課）主事 農政課の城生です。

今回特記事項はございませんので、議案の説明のほうをさせていただきます。

着座にて失礼いたします。

別冊資料の1ページ目をご覧ください。

5 - (1) -ア、農用地利用集積計画決定の件、議案第299号です。
合計のみ申し上げますので、15ページをご覧ください。

合計申し上げます。

合計、一般、筆数178筆、貸付け108人、借入れ55人、面積
26万8,912.82平米。

経営移譲、筆数5筆、貸付け1人、借入れ0人、面積1,190平米。

利用権移転、筆数11筆、貸付け4人、借入れ3人、
面積1万2,119平米。

所有権の移転、筆数9筆、貸付け4人、借入れ4人、
面積1万1,231平米。

第18条2項6号関係、筆数9筆、貸付け4人、借入れ4人、
面積1万2,421平米。

農地中間管理権の設定（一括方式機構集積関係）、筆数95筆、貸付け
59人、借入れ1人、面積14万3,047平米。

農地中間管理権の設定（一括方式機構配分関係）、筆数90筆、貸付け
1人、借入れ39人、面積13万6,041平米。

合計、筆数397筆、貸付け181人、借入れ107人、
面積58万4,961.82平米。

当月の利用権設定全体のうち認定農業者への集積は、筆数183筆、面積
28万1,294.94平米、集積率は65.49%。

議案第299号は以上です。

議 長

ありがとうございました。

ただいまの説明に対しまして農業委員、推進委員の皆様から質問、意見等
ありましたら、お出しをお願いいたします。

小林委員。

小林農業委員

所有権移転関係、資料7ページですけれども、その中で機構から〇〇さん
という方に3月17日に引渡しとなっているんですけれども、それで利用
内容がブドウを作るということで、この機構の人から来て、私も説明を受
けたんですけれども、その中で、これからやっていけばいいんだけども、
これからできなくて、それで5年とか年数は多分ないと思うけれども、結
果的にブドウを作ろうと思って所有権移転したんだけども、田んぼにま
た貸せることができるのか。もう所有権移転して、ブドウを作るって農地
利用するんだけども、自分で水稻をやっていけばいいけれども、その貸
せられるか貸せられないのかっていうのは、この資料と質問の趣旨違うか
もしれないけれども、今後の利用する面で、私も疑問なもんですから、ち
よっとお聞きしたいと思います。

議 長

あれですか、小林委員。要するに、7ページの4番の方ですかね。

小林農業委員

4番だね。

議 長 4番の方ですね。

小林農業委員 はい。

議 長 ○○さんがここでは売買による案件で、ブドウということになっているが、ブドウはできない可能性があるから、田んぼになる可能性がある。

小林農業委員 今、水田なんだよね。

議 長 今、水田。はい。

小林農業委員 そこでブドウを作りたいということで、3反歩もあるので、やっぱりちょっと棚造るにも結構費用かかると思うんだよね。それで、ちょっと違ったところにも1反歩ぐらいの不耕作、緑ぐらいか、拳がっているところがあって、それをこの間見てきたら、重機入れて作るようにしているらしいけれども、ちょっとその3反歩ぐらいの田んぼのところが今後心配なので、いや、ブドウでも、そういう果樹でもやっていってくれればいいけれども、やれなくなったときに、また機構を通じてほかの認定農業者とかそういうのに貸せられるという、その権利関係だよね。

議 長 整理すると、○○さんは現状、水田なんだけれども、そこへこの申請というか、売買による所有権の移転の中で、ブドウにしたと出ているんだが、現状そういうことが難しい可能性もあるが、そこでどういったものかということですか。

小林農業委員 うん。それで3条でただいま所有権移転すれば、ある程度、5年とか10年は自分でやっていかなきゃいけない。人に作業委託はいいけれども、利用権とか相対でも貸せることはできない。でも、機構のほうを通じてやれば、そういうのは可能かどうか。

議 長 分かりました。
城生さん、お願いします。

城生（農政課）主事 すみません、3条の売買と公社の売買、基本的な考え方は一緒になっているので、売買して、買った場合、基本的にはご本人さんが耕作するっていうことで買われていると思うので、基本的には貸付けできないような形になるんですけども、それなりの理由がある場合、可能と認められる場合については、機構を通して貸し付けることは可能になっています。

理由というのが、例えば怪我をされたりとかで、もう完全に耕作できないとか、そういった理由があつて、ちょっと農業委員のほうとかとも話をし、可能だつていうことが認められれば、貸付けは可能なものになってい

ます。

議 長

よろしいですか。

そういうことで、たとえそういうふうになったときには、またそれぞれの対応の中で、不可抗力的な事案が出れば、契約を結んで借りることもできる、可能だっていうことですね。

それで、ただ、ここへ出てきたものについては瑕疵がないので。

小林農業委員

これはいいけれども。

議 長

ええ。そういう心配があるっていうことですね。

小林農業委員

機構とか3条をやらないで貸し借りってというのが実際ありますね。そうやったときに、正規に契約してくださいよっていうのはこっちから言えるけれども、特に農地の貸し借りで、罰則とか、地主が問題提起しなければトラブルにはならないけれども、農地の貸し借りというのは、基本的に公社を通して借りるのが正規ですよ。でも、実際に通さないで借りているところもありますね。それはその地主とか耕作者が違反しなきゃ、こっちほうから問題提起して、ちゃんと正規のルートでこれやってくださいって言うのも何なんだけれども、今後の〇〇さんの在り方だけれども、一応そういうのはどうなのか。

議 長

整理すると、やっぱり我々の預かり知らないっていうところは、当然この言い方が果たしていいか悪いかは別として、そういう場面も当然出てくるんだろうし、ただ、この今、機構を使った売買については、書類的瑕疵もないし、今、小林委員さんおっしゃるように、そういう懸念もあるんだけど、この契約自体というか、これについては瑕疵がないってことです。

小林農業委員

うん。

議 長

ね。それで、やはり我々の立場として、そういうのを見ながら、やはり注意を払いながら、もしイレギュラーな場面があれば、我々も相談に乗る必要あるんだろうし、やっぱりこういう事務局とも話をしながらやるということになってくるとは思いますかね。

小林農業委員

はい。

議 長

それで、今、話に出たので、今後は今、城生さんは人事異動でどこ行っちゃうか分からないが、この4月以降はこの事務局の一員で今みたいな説明して、すぐリンクしていくということになります。

ただ、この契約自体は、やはり瑕疵がないけれども、その辺も注意して、

いろいろなイレギュラーな場面になれば、又貸しでもないけれども、そういうまた事務局と相談して、そういう貸し借りもできるということです。

小林農業委員 そうだね、報告事項だね。

議 長 はい。また整理させていただきます。

小林農業委員 分かりました。

議 長 ほかに。

[質問、意見なし]

議 長 よろしいですかね。
ほかにご意見等ないようですので、ただいまから集約いたします。
以降、この農地に関する議案については、農業委員の方を対象に伺いますので、お願いいたします。
議案第299号について、原案どおり決定することに賛成の農業委員の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議 長 ありがとうございます。
全員賛成ですので、本件は原案どおり決定することといたします。
続きまして、議案第300号 農用地利用集積計画の決定の件について上程いたしますが、参与の制限の規定により、山田委員には退室をお願いいたします。

(山田農業委員 退席)

議 長 それでは、農政課から説明をお願いいたします。
城生主事。

城生（農政課）主事 続きまして、議案第300号です。
合計のみ申し上げます。
16ページをご覧ください。
合計、筆数1筆、貸付け1人、借入れ1人、面積3,006平米。
議案第300号は以上です。

議 長 ありがとうございます。
ただいまの説明に対しまして全ての委員の皆様から質問、意見等を伺います。ある方は挙手をお願いいたします。

[質問、意見なし]

議長 ご意見等ないようですので、ただいまから集約いたします。
議案第300号について、原案どおり決定することに賛成の農業委員の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議長 ありがとうございます。
全員賛成ですので、本件は原案どおり決定することといたします。
山田委員の入室をお願いいたします。

(山田農業委員 入室)

議長 続きまして、議案第301号 農用地利用集積計画の決定の件について上程いたしますが、本件も委員に関係する案件でありますので、丸山委員には退室をお願いいたします。

(丸山農業委員 退席)

議長 農政課から説明をお願いいたします。
城生主事。

城生（農政課）主事 続きまして、議案第301号です。
同じく16ページご覧ください。
合計のみ申し上げます。
合計、筆数4筆、貸付け1人、借入れ1人、面積8,593平米。
上記利用権設定のうち認定農業者への集積率は100%です。
議案第301号は以上です。

議長 ただいまの説明に対しまして委員の皆様から質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

[質問、意見なし]

議長 ご意見等ないようですので、ただいまから集約いたします。
議案第301号について、原案どおり決定することに賛成の農業委員の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議長 ありがとうございます。
全員賛成ですので、本件は原案どおり決定することといたします。
丸山委員の入室をお願いいたします。

(丸山農業委員 入室)

議長 続きまして、議案第302号 農用地利用集積計画の決定の件について上程いたしますが、本件も委員に関係する案件でありますので、古畑委員には退室をお願いいたします。

(古畑農業委員 退席)

議長 農政課から説明をお願いいたします。
城生主事。

城生(農政課)主事 続きまして、議案第302号です。

17ページご覧ください。
合計のみ申し上げます。
合計、筆数2筆、貸付け1人、借入れ1人、面積1,419平米。
上記利用権設定のうち認定農業者への集積率は100%です。
議案第302号は以上です。

議長 ただいまの説明に対しまして全ての委員の皆様から質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

[質問、意見なし]

議長 ご意見等ないようですので、ただいまから集約いたします。
議案第302号について、原案どおり決定することに賛成の農業委員の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議長 ありがとうございます。
全員賛成ですので、本件は原案どおり決定することといたします。
古畑委員の入室をお願いいたします。

(古畑農業委員 入室)

議長 続きまして、議案第303号 農用地利用集積等促進計画案について意見聴取する件について上程いたします。

農政課から説明をお願いします。
城生主事。

城生（農政課）主事 続きまして、18ページをご覧ください。

5－（1）－イ、農用地利用集積等促進計画案について意見聴取する件、議案第303号です。

合計のみ申し上げます。

合計、筆数20筆、貸付け19名、借入れ13名、面積5万2,833平米。

議案第303号は以上です。

議 長

ありがとうございました。

ただいまの説明に対しまして全ての委員の皆様から質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

[質問、意見なし]

議 長

ご意見等ないようですので、集約いたします。

議案第303号について、原案どおり決定することに賛成の農業委員の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議 長

ありがとうございました。

全員賛成ですので、本件は原案どおり決定することといたします。

続きまして、議案第304号から313号 農地法第3条の規定による許可申請許可の件、10件について上程します。

事務局から一括説明をお願いします。

上條局長補佐

議長。

議 長

上條補佐。

上條局長補佐

それでは、総会資料の1ページご覧ください。

農地法第3条の規定による許可申請について説明いたします。

議案第304号から307号は、農業経営規模拡大のため、所有権移転するものです。

議案第308号は、新規就農のため、所有権を移転するものです。

議案第309号、310号は、農業経営規模拡大のため、所有権を移転するものです。

2ページをお願いいたします。

議案第311号、312号は、新規就農のため、所有権を移転するもので

す。

議案第313号は、農業経営規模拡大のため、所有権移転するものです。参考資料として、新規就農者の情報を3ページに掲載しております。ご覧ください。

以上10件につきましては、農地法第3条第2項の各号には該当しないため、許可要件の全てを満たしていると考えます。

ご審議をお願いいたします。

議長 それでは、地元委員の意見を求めます。
304号、島内、松尾委員。

松尾農業委員 304号につきましては、現況畑の移転ということで、〇〇さんから〇〇さんということになります。〇〇さんにつきましては、土地のある場所と住んでいるところが約4、5キロあり、遠地ということで、現在、草地になっているというような状況なものですから、それを〇〇さんに売渡しして、耕作してもらおうというような形になるかというふうに思っています。〇〇さんは申請地の隣に住居を構えていますので、何ら耕作するにつきましては問題なく済むかなというふうに思っています。
以上です。

議長 位置図が皆さんのところに行っていると思いますが、参考に併せて見てください。
次、305号、矢嶋委員。

矢嶋農業委員 申請地は、譲受人の〇〇さんが以前から借りて作っていたということで、所有者の〇〇さん、後継者全員女性ということで、もう農業をやるつもりはないということでありますので、〇〇さんは〇〇という法人も経営をしておりますので、譲渡しについて問題はないというふうに考えます。

議長 それでは、306号、307号、今井ですので、私のほうから説明します。
306号は、〇〇さんがリンゴ作っていまして、そこが腐乱病で、もう手に負えなくなっているところを隣地の〇〇さんが管理するということで、問題ないと思います。
307号は、この〇〇さんは東京で〇〇をやっていた方で、新規就農で5年目。その方が〇〇さんの先代の方の居住しているところを借りて、一生懸命新規就農者として頑張っている方で、大変いいことだと思います。
それでは、308号、小林委員。

小林農業委員 308号ですが、譲渡人の〇〇さんという方が高齢で、他県へ行くということで、その住宅と横にある農地を〇〇に今住んでいる〇〇さんという方が購入か譲渡してもらって住宅に住むということで、隣は、農地といっても、

70坪ぐらいで狭いところで、その住宅の隣の農地ということですので、その住宅を買って移住して来るということで、ついでに農業をやるというふうな感じですが、農地取得には差し支えないと思います。

議 長 309号、齋藤委員。

齋藤農業委員 ○○さんは、夫が亡くなり、1人で畑をやることができなくなり、このままでは耕作放棄地化するので、近くに住む○○さんが在来のソバを作りたいということで、所有権移転をするものであります。○○さんの趣味は、○○の○○でもあり、地域観光の一翼を担うバイタリティー豊かな青年です。問題はないと思います。

議 長 310号、奥原委員。

奥原農業委員 310号については、○○さんの自宅を○○さんが去年購入しまして、その隣に付随する農地がありまして、それを耕作したいということで、自宅を買ったことから隣に農地があったということで、自家用野菜をやりたいといことのようにです。問題はないと思いますので。

議 長 311号、312号、倉科委員。

倉科農業委員 議案311号ですけれども、梓川梓にお住まいの○○さんが○○さんのご所有でありました宅地と、併せまして農地も同時に購入したいという希望でありました。2筆ありまして、畑につきましては、自家消費用に野菜、根菜類等作付したい。それから、水田につきましては、水稻作付け予定ですけれども、昨年まで○○でありました○○さんに技術的なご指導をお願いするというふうに聞いておりますので、いずれにしましても自家消費目的でありますので、特段の問題はないかと考えております。

続いて、議案312号です。梓川倭にお住まいの○○さんが○○さんの農地1筆、1,015平米を購入したいという希望です。現況は、これまでの方が畑として利用されている水田で、自家消費用に野菜ですとか果樹を今後作付したいとおっしゃってございました。ただ、自然農法で栽培するというふうにおっしゃってございましたので、周辺の迷惑にならないよう、草刈りを徹底するというご指導させていただいているのと、あと○○さんご自身は○○を営まれているということでありまして、昨年この話の申請書が上がる前に私のところにも1回来たことがありましたので、農地は基本的には農地として利用することが大前提ですよということで再三お話はさせていただいております。自家消費目的ということであれば、面積的にも適当でありますので、今後も動向を注視していくというふうに考えてございます。

以上です。

議 長 続きます、313号、塩原至委員。

塩原（至）農業委員 場所は、〇〇の近くであります。この〇〇さんの畑につきまして、〇〇さんがずっと栽培をしておりました。〇〇さんにつきましては、〇〇の〇〇を何期もやっておりますので、購入しても、また農地をそのまま維持していく方だと思いますので、問題ないものと思います。

議 長 続きます、全体を通じまして全ての委員から意見を聞きますので、発言のある方はお願いします。

[質問、意見なし]

議 長 意見等ないようですので、農地法第3条の規定による案件、10件について、一括して集約します。

農業委員に聞きますが、議案第304号から313号について、原案どおり許可することに賛成の方の挙手をお願いします。

[全員挙手]

議 長 全員賛成ですので、本件は原案どおり許可することとします。
続きます、議案第314号及び315号 農地法第4条の規定による許可申請承認の件、2件について上程します。
事務局から一括説明をお願いします。

藤井主任 議長。

議 長 藤井主任。

藤井主任 農業委員会事務局の藤井です。説明をいたします。
議案書4ページをお願いいたします。
農地法第4条の規定による許可申請の件、ご説明をいたします。
議案第314号、転用目的は住宅敷地（通路、倉庫）です。こちら、やむを得ないものとして追認申請となっております。
続きます、議案第315号、転用目的は農業用施設（農機具格納庫）です。こちらは農振用途済みの案件となっております。
以上、これらの案件につきましては、内容は議案書のとおりとなります。
一般基準等の各要件を満たしていると判断しております。よろしく願いいたします。

議 長 地元農業委員の意見を求めます。
314号、今井ですので、私から言います。先ほど議案第307号で言いました〇〇さんが住んでいらっしゃる建物があって、それを4条で取得す

るものです。追認案件ですが、もう隔離された場所でありまして、ほかに用途ありませんので、致し方ないと判断をいたしました。

続きまして、315号、倉科委員。

倉科農業委員

今回、〇〇さんがご自身所有の農地408平米に農業用施設、乾燥施設ですとかそういったものを含めまして、そういったものを建築したいということで、転用の申請が上がってきたものです。場所は〇〇集落の一角で、本人所有の住宅に隣接した農地になります。位置図資料の9ページを見ていただきますと、今回の申請地の奥に見える宅地、これ、北向きになるのですけれども、北側が本人の所有の宅地です。東側は本人所有の農地がありまして、西側には道路、南側、手前に見える畑ですけれども、こちらは第三者の農地ということで、これらに囲まれた狭小な農地であります。周辺農業への影響は特に考えられないことと、農業経営上必要な施設であるということ踏まえまして、本件における転用はやむを得ないものと考えております。

なお、〇〇さんも稲作農家でありまして、地域の担い手として頑張っておられます。

以上です。

議 長

それでは、現地を見ていただいた矢嶋委員に意見を求めます。

矢嶋農業委員

まず、314号ですけれども、ちょうど宅地の西側に道路がありまして、その道路からの入り口が今回申請のある通路ということで、その奥に建物が建たっておりますけれども、もうこれは昔からの古い建物ということで、4条申請、これはやむを得ないものと考えます。

それから、315号でありますけれども、先ほど倉科委員さんのおっしゃったとおりであると思います。特に農機具格納庫、そこに造る必要性があるということと、周りの農業へ影響ないというふうに考えますので、これもやむを得ないものと考えます。

議 長

それでは、全ての委員に意見等、求めます。

[質問、意見なし]

議 長

意見等ないようですので、農地法第4条の規定による案件、2件について、一括して集約します。

農業委員に聞きますが、議案第314号及び315号について、原案どおり承認することに賛成の方の挙手をお願いします。

[全員挙手]

議 長

全員賛成ですので、本件は原案どおり承認することといたします。

続きまして、議案第316号から317号 農地法第5条の規定による許可申請承認の件、2件について上程します。

事務局から説明をお願いします。

藤井主任 議長。

議長 藤井主任。

藤井主任 それでは、議案書の5ページをお願いいたします。
農地法第5条の規定による許可申請承認の件、説明をいたします。
議案第316号、転用目的は農業用施設（倉庫・駐車場）です。
続きまして、議案第317号、転用目的は住宅です。
以上、これらの案件につきましては、内容は議案書のとおりとなります。
一般基準等の各要件を満たしていると判断しております。よろしくお願
いいたします。

議長 地元農業委員の意見を求めます。
316号、百瀬委員。

百瀬農業委員 316号ですけれども、この譲受人の〇〇さんですけれども、お住まいは
〇〇に住んでいるということです。それで、1ヘクタールほどのブドウを
〇〇地区で栽培しているということで、近くに農業用の倉庫と駐車場が必要
だということで、四、五か所候補地を当たったのですけれども、ここし
か適合するところがなかったということで、赤穂さんからこの土地を譲り
受けるというものです。

それで、別添の位置図資料10ページを見ていただきたいのですが、東側を
向いて撮影されておりますけれども、東側にも、東側は住宅になって
いますけれども、住宅の手前のところに〇〇さんの農地があります。そ
それで、四方が全部農地に囲まれているということで、この農地の右側のほ
うですね。右側のほうに道路がありまして、ここに入って行くのに進入路
が必要になるのですけれども、トラックが止まっている辺りだと思っ
たのですが、進入路はもう既に確保されているということでございます。

それで、四方が農地ですので、一番気になりましたのが、北側がですね、
北側も農地ですけれども、ここに建たる倉庫が幅14メートル、高さが6.
5から7メートルあるということで、北側の農地は日影になるかなと思っ
て、その辺がちょっと気になったのですけれども、所有者、耕作者の〇〇
さんに確認をしていただきましたところ、耕作者の〇〇さんも了承してい
るということですので、特に問題はないかと思えます。

以上です。

議長 317号、久保委員。

久保農業委員 場所は中川、国道143号が通る非常に便利、立地条件も問題ないところ
であります。〇〇さんは〇〇さんの娘の旦那ですので、今、梓川倭のアパ
ートに住んでいますが、家を建てたいということで、義理の母の畑に新築
したいというものです。周りは自分のところの土地と、隣接する住宅に関
しても、別に支障がある日影云々の問題ありませんので、これは問題ない
というふうに判断します。

議 長 現地を見ていただいた細江委員、一括して意見を求めます。

細江農業委員 316号ですけれども、地元でブドウを一生懸命やっという
ことなので転用目的に対し、別に問題ないと思います。
317番ですけれども、やむを得ないものとして見てきました。

議 長 続きまして、全体を通じまして全ての委員の意見を求めます。

[質問、意見なし]

議 長 意見等ないようですので、農地法第5条の規定による案件、2件について、
一括して集約します。

農業委員に聞きますが、議案第316号及び317号について、原案どお
り承認することに賛成の方の挙手をお願いします。

[全員挙手]

議 長 全員賛成ですので、本件は原案どおり承認することと決定いたします。
続きまして、議案第318号 相続税の納税猶予の適格者証明願承認の件、
1件について上程します。
事務局から説明をお願いします。

藤井主任 議長。

議 長 藤井主任。

藤井主任 続きまして、6ページをお願いいたします。
相続税の納税猶予の適格者証明願承認の件、説明をいたします。
議案第318号、惣社にお住まいの〇〇さんが承認を受けるものです。
以上になります。よろしくをお願いいたします。

議 長 地元委員の意見を求めます。
柳澤委員。

柳澤農業委員 週末、現地に出かけて行って、〇〇さんはちょっと外出で会うことが出来

なかったのですが、お母さんがいらっしゃったので、現場まで案内していただきました。現場は、ブドウのハウスが全体的に造ってありまして、中をちょっと見させていただいて、きれいにもう剪定されていて、もう春を待つ、そんな段階でした。きちんと亡くなったお父様から相続して、自身で農業を継続しています。

議長 この案件につきまして、全体を通じまして皆さんから意見を求めます。

[質問、意見なし]

議長 意見等ないようですので、相続税の納税猶予の適格者証明願承認の件、1件について集約します。

農業委員に聞きますが、議案第318号について、原案どおり承認することに賛成の方の挙手をお願いします。

[全員挙手]

議長 全員賛成ですので、本件は原案どおり承認することと決定します。
続きまして、議案第319号及び320号、引き続き農業経営を行っている旨の証明願承認の件、2件について上程します。
事務局から説明をお願いします。

藤井主任 議長。

議長 藤井主任。

藤井主任 7ページをお願いいたします。
引き続き農業経営を行っている旨の証明願承認の件、説明をいたします。
議案第319号、島立にお住いの〇〇さんが承認を受けるものです。
続きまして、議案第320号、野溝西にお住いの〇〇さんが承認を受けるものです。
以上になります。よろしくをお願いいたします。

議長 地元農業委員の意見を求めます。
319号、濱委員。

濱農業委員 〇〇さんの2筆ですが、特定貸付けで耕作されておりまして、現在は2枚とも転作の麦、作付してあります。去年は両方とも田んぼでした。その前の年は、2年3作ですので、麦、大豆の作付けということで、滞りなく耕作していました。

議長 320号、御子柴委員。

御子柴農業委員 先日、〇〇さんにお会いしました。〇〇さんは〇〇に在籍していただき、それと〇〇という伝統ある〇〇の振興事業の〇〇を務めております。人柄は何ら問題ないと思います。

そして、申請の農地を見てまいりましたが、市街化区域内にございまして、周りは病院やらアパート、住宅等もありますが、しっかり耕作していることを確認してきました。

以上です。

議長 全体を通じまして委員の皆様から意見を求めます。

[質問、意見なし]

議長 意見等ないようですので、引き続き農業経営を行っている旨の証明願承認の件、2件について一括して集約します。

農業委員の皆さんに聞きますが、議案第319号及び320号について、原案どおり承認することに賛成の方の挙手をお願いいたします。

[全員挙手]

議長 全員賛成ですので、本件は原案どおり承認することと決定します。

続きまして、農地に関する事項の報告事項に入ります。

事務局から報告事項アからエについて一括説明をお願いします。

上條局長補佐 議長。

議長 上條補佐。

上條局長補佐 それでは、報告事項のアからエについて説明いたします。

これらは書類等完備しておりましたので、事務局長の専決により処理いたしました。

総会資料8ページからご覧ください。

総会資料8ページから10ページ、農地法第18条第6項の規定による合意解約通知の件、23件、11ページから13ページ、農地法第3条の3第1項の規定による届出の件、25件、14ページ、農地法第4条の規定による届出の件、4件、15ページから16ページ、農地法第5条の規定による届出の件、9件。

以上になります。よろしく申し上げます。

議長 ただいまの報告について委員の皆様から質問、意見等を求めます。

[質問、意見なし]

議長 意見等ないようですので、これら報告事項につきましては、事務局説明のとおりご承知おきをお願いします。

農地に関する事項の議事が終了しましたので、2時40分まで休憩いたしますので、暫時休憩です。

(休憩)

議長 それでは、議事を再開したいと思いますので、ご協力をお願いいたします。休憩前に引き続きまして、その他農業委員会業務に関する事項から進めてまいります。

以下の議事については、推進委員の皆さんも参加をお願いいたします。

まず、協議事項、「松本市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想」の見直しについてを議題といたします。

農政課から説明をお願いいたします。

川村補佐。

川村（農政課）課長補佐 皆さん、こんにちは。農政課の川村でございます。

議題に入る前に、少しご報告事項を説明させていただきたいと思います。

まず、冒頭、会長のほうからの挨拶にもあったかと思うんですが、いよいよこの4月1日から地域計画というものが始まるわけでございます。この2年間、農業委員の皆様にもご尽力いただきまして、形になって、いよいよ3月末に公告することとなっておりますけれども、ご承知のとおり、今日の前段でもありました農地転用、それとか農振除外もそうなんですけれども、する前には、申請前に地域計画から除外する必要があるということが法で定められております。つまり、毎月毎月地域計画の変更を行わなければいけないと、そういったこともございますので、本件につきましての詳細につきましては、3月の定例総会のときにまた詳しくご説明するとともに、皆様にもまたご協力していただかなければいけませんので、よろしくお願ひしたいと思います。

もう一点、この地域計画に伴いまして、今度4月1日から相對契約、農地の相對契約ができなくなる。中間管理あるいは農地法3条になっていくということもあります。

それと、事務の関係なんですけれども、これ、行政改革の一環で、4月1日から貸借業務を今、市長部局の農政課のほうで行っているところですが、今度農業委員会のほうに移ると、事務局のほうに移ると、そういったこともございますので、これにつきましても、3月の定例会に併せてご説明していきたいと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思います。

私のほうから、冒頭に別件ですが挨拶させていただきました。

それでは、農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想の見直しについては、担当に代わりますので、お待ちください。

望月（農政課）主任 農政課の望月と申します。

本日ですけれども、「農業経営基盤強化の促進に関する基本的な構想」の見直しについてということで、資料の17ページと、あと皆様に別冊で「原案」と表に大きく書かれたものがあるかと思うんですけれども、その2つを使って説明させていただきたいと思いますので、よろしくお願いたします。

では、着座にて説明させていただきます。

まず、趣旨ということで、今回の見直しですけれども、国のほうで定めています農業経営基盤強化促進法というものにに基づきまして、今年度ですが、県で定めている農業経営基盤強化の促進に関する基本方針というものが見直しになりました。それに伴いまして、松本市で定めている基本構想を見直すものでございます。

こちら地域計画同様に、構想を策定するときと変更するときに関しましては、関係団体から意見聴取をすることということになっておりまして、それもありまして、今回、農業委員会からご意見を頂戴するものとなっております。

2の本市の基本構想の概要ですけれども、根拠法令ということで、先ほどもお話をさせていただきましたけれども、国のほうで定めている強化の促進法と基本要綱、それに基づきまして、県の段階では基本方針を定めております。それらを参考にして、市の段階では基本構想を定めるというような、そんなステップになっております。

(2)の目標年度ということで、こちらの基本構想なんですけれども、おおむね5年ごとに見直しをすることとなっております、今年度その年に当たっておりますので、言ってみたら定期見直しということになっております。

この基本構想等で定められている制度なんですけれども、大きく分けて4つありまして、農業経営基盤の強化の促進に関する事項ということで、地域計画のことなどもここに書かれています。

あとは、効率的かつ安定的な経営体の育成ということで、認定農業者制度に関すること、新たに農業経営を営もうとする青年等の育成ということで、認定の新規の就農者に関することも書かれています。

あとは、最後に集積率等にも関わりまして、農用地の効率的かつ総合的な利用に関する事項などがこの基本構想では定められているものでございます。

(4)の見直しの経過なんですけれども、今回5年に1度の定期見直しということで、進めているところでございます。

今回の見直しの考え方、基本的な方針なんですけれども、方向性なんですけど、これまで同様に、松本市の特性を踏まえながら、県の基本方針の変更に沿って見直しを行っているものでございます。

では、18ページご覧ください。

では、実際にどういったところを見直したのかということで、皆様のお手元に新旧対照表もお配りしてあるので、細かい文言の変更等は、またそちらを参考に見ていただきたいんですけれども、主な内容ということで、大

きく分けて4つ、今回ご説明させていただきたいと思います。

まず1番が、効率的かつ安定的な経営の所得目標が見直しとなるということ。それに伴いまして、農業経営の指標も変更となりました。

あとは、集積率の目標も、県のほうでは見直しを図ってくださいということであったんですけども、今回は集積率の目標に関しましては変更はないということになっております。

一番最後に、利用権設定等促進事業ということで、今後使われなくなるというか、なくなるものでございますので、その件に関しては、関係する文言全てが削除になっている。大きく分けて、この4つになっております。

では、実際にどういったところなのかということを見ていきたいんですけども、5番に移りまして、まず第1ということで、こちらの原案でいきますと、1ページになります。別冊の原案資料でいきますと1ページになります。

そちらの2番のところに効率的かつ安定的な農業経営についての目標というものがあるんですけども、こちらに主たる事業者1人当たりの年間所得目標ということで、550万円ということで記されています。こちらが、これまで530万円だったんですけども、20万円アップで550万円ということで、こちらの算出方法なんですけれども、県のほうで、農業に限った話ではなくて、他産業を含めた事業従事者の方の所得の目標を調べまして、平均を取りまして、それを当てはめていって、農業者の平均所得の目標ということで、550万円ということで定めたものでございます。

次に行きまして、原案の2ページをご覧くださいんですけども、3番のところの新たに農業経営を営もうとする青年等の目標及び確保ということで、こちらの年間の所得目標250万円とあるんですけども、認定新規の就農者に関しましては、いきなり550万円目指してというのは、ちょっと厳しいところがありますので、そういった方たちに関しましては、まずは250万円を目標としましょうということで、こちらは今回の見直しで所得の変更等がなく、これまで同様に250万円ということになっております。

次、4ページをご覧ください。

2番に農業経営指標というものがあるんですけども、こちらがですね、先ほど所得の目標ということで550万円というものがあつたんですけども、これを達成するためにどの程度の農業経営をしていけばいいのかというような目安となる指標になっております。

こちらも、これまでは見直し前の530万円に沿った指標となっていたんですけども、こちらが550万円にアップしたことによって、この指標自体も少し数字が上がっているということになっております。

またちょっとページが飛ぶんですけども、今度は13ページをご覧ください。

こちらの1番に農用地の集積目標が示されているんですけども、まずこの市の全体の目標ということで、60%というものが定められています。これ、県のほうから各市町村の全体の集積率の目標ということで示される

数字がございまして、松本市は60%ということになっております。

それを基にしまして、それぞれの地帯ごとに特性に沿ってパーセントを定めていったものが、そちらに記してある数字になるんですけれども、これらに関しましても見直しは図られておらず、前回と同様な数字となっておりますので、よろしく願いいたします。

一番最後なんですけれども、15ページに行きまして、5番、農業経営基盤強化促進事業に関する事項ということで、幾つか事業が示されているんですけれども、これまではここに利用権設定等促進事業というものが入っていたんですが、それが全て削除となっております。

それに併せまして、この資料、別表があったんですけれども、その別表も全て利用権設定等促進事業に関わるものだったので、別表を全て削除ということになっております。

以上が今回の見直しの主な内容になります。

今回の資料の定期総会の資料の19ページに今後の進め方というふうにあるんですけれども、まず今回の農業委員会のほうに意見聴取をさせていただいたんですけれども、並行しまして、JAハイランドとJAあづみのほうにも意見聴取をしております。その結果を基に、基本構想の案を定めまして、公告・縦覧をし、県へこういったふうに決めましたということで協議をし、3月末までに公表する、そんな流れになっております。

すみません、説明は以上になります。

議 長

ありがとうございました。

ただいま農政課から説明がありました。

これより全ての委員の皆さんを対象に質問、ご意見等ありましたら、お伺いいたします。

小林委員。

小林農業委員

新人で、よく概要が分からないもので、ちょっと質問の趣旨というか、そういうのもあれなんですけれども、まず前回のときに地域計画策定に係る意見聴取っていう、地域計画のこういう各名簿をもらったんですけれども、その前のところに、地区ごとでこれは、私、岡田の農業委員ですので、岡田のこの地域計画、いわゆる人・農地プランのものが多分示されていると思うんだよね。

これを今度3月で説明されて、4月から実施するんですけれども、私が農業委員になったのは8月ですので、そのときに1回、前の農業委員さんが中心になって、一応農政課さんのほうからも来て、何か10年後の地図だね。その策定とか調査していくという方向は説明されたんですけれども、そこに集まった人は、主に経営体というか、担い手の認定農業者の方が主で、そんなに人数も多なくて、それでこれから4月からその地域計画で10年先の農業を目指していくんですけれども、今、全体的にやっぱり少子化だとか、担い手不足というのがやっぱり大きな課題と思うんですけれども、そういう中で、後継者もいなくて、農地もどんどん減っていったら

うんだよね。優良農地は保っていかなくちゃいけないんですけれども、そういう中で、岡田の関係で言えば、再生協というのもあるんですけれども、その中には改良区というのは入ってないんだよね。主に岡田地区の果樹とか野菜とか水稲、畜産はあまりないもんであれですけれども、そこで一応その方向性みたいのを多分、再生協議会といえ、農協の理事さんが会長になっているもんで、そっちがやっていくんだろけれども、あんまりこれまで一応農協の会員なんかでも地域計画はそんなに出てこなくて、農協のこれから3年間の何かプランというのは一応出ているんだけれども、それを、農協のほうに地域プランとセットで、農協の方針も地域プランに近いような要するに目標みたいなものを提起していってもらえばいいんですけれども、そこを農政課のほうで主にやっていると思うんだよね。

だで、これから岡田地区でも、改良区とか再生協議会とか、認定農業者中心になって、そこに農業委員も入っていくんですけれども、そういう協議会ができればいいんだけれども、できなくて、このまんま農協主体で行くって言うけれども、こういう地域計画を例えば変更したときに、誰が、再生協議会でなるとい、今回はなるわけだよね、農政課のほうでも。その変更したのを農政課に届けるのかね。内容も、例えば農業委員と再生協議会の会長と改良区とか……

議 長 小林さん、ちょっといいですか。

小林農業委員 はい。

議 長 ちょっとやっぱりまだ日が浅いし、そこら辺の整理の仕方がいろいろだと思うんですが、この協議事項に掲げてあります1番の松本市農業経営基盤の強化の促進に関する基本的な構想がこの議題なんですよ。

それで、地域計画と目標地図、また似て非なるもので、題目は同じようなものでいて、同じような理解の仕方は違うだよね。

それで、今回は松本市における農業基盤の強化法なので、これが農政課の今、当面指針を、先ほどの認定農業者とか、経営の指針を今つくった。これでいいか。松本市の農政課ポジションの今の段階でいいという指針がこれ、我々へ意見を求められた内容です。

それ、前段でも僕の挨拶の中でも申し上げたし、今、川村補佐も申し上げたその人・農地プランから出発した地域計画、目標地図、これはやはり似て非なるもんなんですよ。

これ、やはり我々は5年後、10年後の目標地図を立てて、それをこの1か月後に公告して、それに基づいた中のそれぞれ地域の計画を立てていくというのが本来の姿なんですよ。

それとちょっと違うもんですから、今申し上げているこれ、農政課がビジョンとして掲げたものの指標ですので、またその前段で申し上げたのは、また3月でまたそれぞれ申し上げていきますので、またご理解願えばいいと思うんですが、それと再生協というか、それぞれ地域になる各種の農業

団体の在り方というのは、やはり我々もいろいろ考えていかなきゃいけないもんですから、それは思うんですが、ただ、今の議題とはちょっと離れているもんですから、また違った場面で、またそういう今のご意見を伺えばというふうに思います。

小林農業委員 はい。

議 長 ということでいいですか。僕の今申し上げた内容でいいかどうかということちょっと川村さん。

川村（農政課）課長補佐 ありがとうございます。

地域計画等々、確かに再生協云々というものはありますけれども、また来年、先月だったかご説明申しましたとおり、地域計画に対しましては、新たに意向調査を取って、リスタートをかけていくと。そういった中で、どういった話し方をしていくかというのは、また地域それぞれの特色も出ると思いますけれども、取りあえずはほとんどの地域で再生協からスタートするかと思います。

そんなこともまた今後、地域計画できたら、それっきりということじゃなくて、また改めまして農業委員会のほうにもご説明、ご相談等をしていきたいと思いますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思います。

議 長 またそれぞれ疑問点、もちろんおっしゃるのは構いませんので、どんどんやってもらえばいいんですが、基本的に今回のこの協議事項の1番は、そういった趣旨で、松本市の農政課が指針として表す数字、内容、果たしてこの内容でいいかどうかという意見を賜る機会です。

この用途については、認定農業者もそうですし、新規就農者の関係も、先ほど250万円の関係もありましたけれども、こんなことでいきたい。それには、見直して、これが農業委員会にこの方向でいいかどうかという判断をしていただく内容です。

それがやっぱりJAハイランドもあづみも同じような数字をもって、同じような資料でご意見を伺って、松本市の立てつけをしていくというのが趣旨のことです。

ということで、この素案の別冊も含めまして、何か意見ございますか。
倉科さん。

倉科農業委員 すみません、今回の改正の中の大きなところで、年間所得目標を550万円にアップしているというところに関連して、ちょっとお聞きしたいところがあるんですけども、今回、法人だと1人当たり総支給額550万円ということで、20万円上がりました。これ、あれですよ。ちょっとここにどこにも書いてないようなんですけども、総支給額なんで、給与ではなくて、福利費ですとか、厚生費とか、そういったものを多分足して、従業員の数で割り返すと550万円以上になるようにということだと思っ

んですけれども、ちょっとその計算式がまた分かりましたら教えていただきたいと思っているのと、あとこの経営指標なんですけど、軒並み1割から2割ぐらいの面積をアップしないと、550万円達成しないから、こういう数字に調整をかけたのかなと思うんですけれども、1ページ目のところにまた戻ってあれなんですけれども、年間労働時間2,000時間というのを目標に据えている中で、面積2割上がって、労働時間を抑えられるのかっていうところもちょっと疑問ではあるんですね。なので、経営指標のところは、550万円確保するためには、どうしても農産物上がってない中で、面積増やすしかないんで、こういうことになると思うんですけれども、ちょっと現実と乖離してしまわないように、そこのところは改正の中では十分注意をお願いしたいなと思っています。

それから、もう一点だけです。本冊原案の13ページのところなんですけれども、こちらで農用地の集積に関する目標ということで掲げていただいております。これ、例えば梓川地域ですと60%なんですけど、現実問題は、もう地域においてはもう70%を超える集積率を達成しているような地区もあったり、それぞれの地区の事情があると思いますけれども、この数値、さっきもちょっと質問の中で出てあれなんですけれども、地域計画のところとか、全部リンクしてくる数字であって、集積率の目標に向かってどういうふうにしますかというのが国の要件でいっぱい出てきちゃう中で、既に達成しているものを書かれてしまうと、それに向けてやるために、これこれを整備をするために必要なんだ、事業が必要なんだというところが言えなくなっちゃうもんですから、ちょっとこういったところで、この集積の目標も、現実に即したものを見直していただく必要があるのかなのかというところ、ほかの事業との関連を含めて、ちょっと検討いただいた上で、改正していただければと思います。

以上です。

議長 望月さん、2点お願いします。

望月（農政課）主任 まず、所得目標の550万円の算出方法なんですけれども、こちら、説明の中で、県のほうで他業種の従事者の平均的な所得等を基に算出したということでお伝えしたんですけれども、実際の数字をお伝えしますと、長野県内での他産業も含めた平均的な生涯所得が約2億円ということになっております。その中で、主たる農業従事者として所得を得る正味期間ということで、37.5年間というような数字も県のほうから示されています。なので、この2億円を37.5年間で割ると、大体550万円になるというような算出方法になっております。

議長 川村補佐。

川村（農政課）課長補佐 それでは、2番目のご質問のほうから私のほうでお答えさせていただきます。

4ページから、本冊じゃなくて、原案というほうの4ページから、おっしゃるとおりなんです。この組合せというのは本当に目安であって、県のほうで出してきたものを、全県これを使っているという状況が正直なところでございます。

ただ、農政課のほうで今、認定農業者の認定業務を行っているんですが、そのときには、実情に応じて積み上げをして、所得計算をはじめ、例えばこのところ、リンゴとかになっているんですけども、5ページ24番のリンゴですね。ふじ50アールとかあるんですけども、何年生かなんていうのは書いてないわけですし、これは3年生のものと10年生のものは全然違いますというところもございまして、認定農業者の審査をする中での算定は、実情に応じたもので算定をいたしまして、かつその後、県の普及のほうの担当のほうからチェックをかけてもらって、認定をしているという状況ですので、ここは、本当に申し訳ないんですけども、目安という形で捉えていただければいいかと思えます。

それと、3点目、集積率の関係ですけども、13ページですかね。委員さんおっしゃるとおりで、まさにそのとおりなんですけれども、実は、こちら、県のほう、国も含めた中で協議したんですが、基本構想の集積率と地域計画の集積率、特に目標なんですけれども、異なってもいいですかっていう問いかけをしたところ、そこは別に基本構想に捉われなくてもいいというふうな回答をいただいていますので、今後、特に補助金のひもづけ、そういったところで、委員さんおっしゃるとおり、目標が現状よりも下回っているなんていう状態では、何をもってその地域に機械とかを入れてよくしていくかというのが成り立ちませんので、そこは必要に応じて地域計画の目標数値を変えていくと、そういった形を取りたいと思えます。

倉科農業委員

ありがとうございました。

ちょっと戻っちゃって申し訳ないんですけども、先ほどの550万円計算するところの話なんですけれども、これ、認定農業者を申請して、受ける際にも、こういったような計算して、出さなきゃいけない数字だったと思うんですよ。

先ほどの説明では、全体の金があって、それを割って、これになったということなんですけれども、ちょっとこの出し方って、定められているものがある気がするので、ちょっとこれ、ご確認をいただければなと思っています。

以上です。はい、分かりました。

議 長

川村補佐。

川村（農政課）課長補佐 ありがとうございます。

おっしゃるとおりです。特に基本となるものは、例えばハイランド農協さんですと、基本となる例えば何かの作物、何アールくらいは、平均では幾らの所得というものが提示されていますし、倉科さんもお存じだと思える

ですけれども、県のほうの普及のほうでは、もう確実に積み上げ数字ですかね。機械損料とか、そういった人件費も積み上げていって、こうだって数字がありますので、この辺、その観点もありまして、普及サイドのほうでチェックをしていただいているところもありますので、また支障等があれば、当然変えていくべきだと思っておりますので、ご理解のほどよろしくお願ひしたいと思ひます。

議 長 　　いいですかね、倉科さん。

倉科農業委員 　　はい。

議 長 　　そういうことで、机上の空論なんてくくっちゃ申し訳ないが、それに近いものもどっかこうかあるということの中で、松本市の農政の目標という捉えどころのポジションでいってもらいたいと思ひます。農家の皆さんが集積率が上がらないから、補助金なりサポートを受けられないという場面にならないようなことのないようにするということを今、川村補佐からありましたので、ぜひその辺のご理解をしていただきたいと思ひます。
柳澤さん。

柳澤農業委員 　　倉科さんの2番目の質問にも関連しているんですけども、この13ページの農用地利用の集積に関する目標、これが一応この都市近郊地帯から中山間地まで4つに大ぐくりして、それでその目標値を55%以下35%まで設定していますよね。これ、さっき倉科さん、地域によっては、もうこの目標値を上回っているという話も、私もいろいろ聞いたりしているんですけども、実際問題として、これ、個々の地域ごとに現状の集積率が何%だという数値は出ているんですよ。

議 長 　　いいです、そこで。

柳澤農業委員 　　いや、それで、私が聞きたいのは、例えば補助金との関係もあるんでしょうけれども、例えば中山間地帯で9地区ですか。9地区が一緒になって、これ、全体として例えば目標値35%というのを達成しなくちゃいかんということ、平均してと言ったらいいのかな。個々には、ばらばら、多分目標値、集積率違いがあるんですけども、平均してこの数字をクリアしたりという意味なんでしょうか。

　　ちょっとそこは、現状がどうなっていて、目標値との乖離というか、それがちょっと見えないもんですから、こんな質問させてもらったんですけども。

議 長 　　あれですかね。いいですか。基礎的な数字から行きますか。

柳澤農業委員 　　多分、現状がどうなっているというのは、どっかで数字見たような記憶が

あるんですよ。

議 長

それで、グローバルなね、後ほど事務局のほうから話がありますけれども、トータルの左側の4地帯は、それぞれ基準の地帯で、これは目標のための数字だと思いますよ。

それで、今、柳澤さんがおっしゃるように、右のそれぞれのくくりの中でも現状も違うし、目標も地図も当然違ってくると思います。

だから、それが今、さっきお二方のおっしゃったように、この数字が即独り歩きして、例えば地域計画の中の計画の中で補助金が受けられないとか、国のサポートが受けられないという事態にはこの数字だけでしないということ農政ポジションでも、我々もそれは念頭に置きますので、あくまでも目標のための数字とこの資料だという理解の下に読んでいただければいいと思います。

だから、その後、事務局的な話は、草田係長のほうからします。

草田係長

こちらの13ページの目標なんですけど、また来月、最適化の来年度の目標のときにご説明はしますが、松本市の最適化活動の集積率の目標というのは、こちらの市の基本構想に掲げられた目標になるように、集積率の目標をするようになっています。

なので、松本市全体として60%達成ができるようにということで、このそれぞれのパーセントがなっていると思いますので、集積率が上がるところとなかなか難しいところがあるとは思いますが、市全体として60%になるように、そしてもう既に達成しているところについては、現状維持していただきたいというふうに思っています。

以上です。

議 長

結果的に、先ほどから何回も申し上げているとおり、この数字が当然、個々の数字それぞれ出ていますので、それはやはり、我々は端的に言っちゃうと、給与にも影響するんだろうし、仕事のやりっぷりもね、評価の1つの基準にもなるんだろうし、もっと細かい数字の中でね。それが、先ほどくどいように言っていますが、それ、農家に対する国のサポートなり、市のサポートなり、県のサポートなりも当然それ、リンクしてきますので、それには瑕疵のないような方策を取る。ただし、グローバルで見ると、この方針で松本市農業っていうのは、当面数値なり文言では、これで行きたいということの内容です。

柳澤さん。

柳澤農業委員

くどいようなんですけれども、地域計画でいわゆる守るべき農地と言ったらいいのかな、要はちゃんと今後維持していこうというその農地に対する集積率でいいんですか。つまり、農地の中には、地域計画に入っていない、そこから落っこっていく農地もありますよね。そういうところは、この集積率を考えると、そこは外して考えていいということなんですか。

議 長 川村補佐。

川村（農政課）課長補佐 こっちの基本構想のほうじゃないお答えになっちゃうんですけども、地域計画って、全て農地台帳に載っている農地を基本としているわけですから、例えば地区、その地区の農地台帳に載っている全面積っていうのが分母になります。そこで、担い手への集積がどのくらいの面積かって言って、集積率を地域計画では出しています。

基本構想は、農業委員会の方で出しているんで、またちょっとやり方が異なるかもしれないんですけども、地域計画は市町村によっては、うち、松本市は農地台帳に載っているものを基本全部やっているんですけども、ほかの市町村だと、農振農用地だけやっているっていう場合があるもんで、分母が異なるんですよ。ですので、あくまでも今、松本市の例に例えると、農地台帳に載っているのを分母、そのうち担い手が経営しているところを分子、それで集積率を出す、そんな形になっております。

柳澤農業委員 分かりました。

議 長 いいですか。

草田係長 基本構想の集積率について補足させていただきたいんですが、基本構想のここの集積率の目標は、農業委員会を出しているものではなくて、市で出したものです。農業委員会では、最適化の集積率の目標としている、そういう順番ですので、お願いします。

議 長 立てつけはそういうことでご理解願いたいと思います。
ほかに。

[質問、意見なし]

議 長 よろしいですかね。

これで松本市の農政としては、こういう構想とこういう数字で行くと。今、それぞれお出しいただいた意見については、生かせるところは当然生かしていかなきゃいけない場面も出てくると思いますので、またご理解をお願いしたいと思います。

それでは、集約いたします。

全ての委員の方に伺いますが、この件について、原案どおり決定することに賛成の委員の方の挙手をお願いいたします。

[多数挙手]

議 長 ありがとうございます。

賛成多数ですので、本件は原案どおり決定することといたします。

次に、報告事項のア、山林化農地に関する非農地判断の結果についてを議題といたします。

事務局の説明をお願いいたします。

田中主事。

田中主事

農業委員会事務局の田中です。よろしくお願いいたします。

山林化農地に関する非農地判断地の確定についてということで、資料の20ページをお開きください。

着座で失礼いたします。

早速ですけれども、1番、本報告の要旨は、山林化、原野化を進める農地として、今年度の非農地判断地を決定しましたので、皆さんに報告するものです。

2、経過ですけれども、昨年11月の定例総会にて実施方針のご報告して以降、1月に入りまして、登記地目が田、畑の所有者へ事前の確認の通知を送付しまして、異議等を申し出ていただく期間を設けました。

この異議等申し出ていただく期間には、19筆、7名の所有者から非農地判断には同意しないという申出がありました。理由としては、今後耕作をする予定があるというものが多かったんですけれども、非農地判断に対するご理解をいただけないものも若干ありました。いずれにしましても、それであれば管理はしっかりしていただきたいというような点はお伝えしたところ です。

続きまして、3番ですけれども、令和6年度は552筆、31.8ヘクタールを非農地として台帳から削除することとします。昨年は368筆、19.2ヘクタールでしたので、ちょっと登記地目が山林、原野のところを加えた分、今年はい多いものになっています。

地区別の詳細は22ページ、所有者ごとの明細は23ページ以降にございますので、後ほどご確認をお願いいたします。

4、今後の対応ですけれども、3月の中旬に、まず登記地目、山林、原野の方に非農地通知をお送りいたします。下旬には、登記地目、田、畑の方に非農地通知をお送りいたします。

3月中に農地台帳から農地の登録を削除しますので、この処理を行うことによって、現地確認アプリですとか、農地ナビからはもう表示することができなくなってしまいます。

その後、非農地判断地は令和8年度からは現況に応じた課税区分に変わっていきますし、青地は青地の除外手続が進んでいきます。山林となったところは、森林の台帳に登載されることとなります。

簡単ですけれども、今年度の非農地判断についてのご報告は以上です。よろしくお願いいたします。

議 長

ありがとうございました。

ただいま事務局から説明がありました。

質問、ご意見ある方はお願いいたします。

[質問、意見なし]

議長

なければ、本件はただいまの説明のとおりですので、ご承知おきをお願いいたします。

続きまして、報告事項のイ、令和6年度農地所有適格法人の要件等確認結果についてを議題といたします。

事務局から説明をお願いいたします。

丸山さん。

丸山事務員

農業委員会事務局の丸山です。

それでは、資料の36ページをご覧ください。

着座にて失礼いたします。

令和6年度の農地所有適格法人の要件等確認結果について報告いたします。

今回の報告は、市内に農地を所有し営農している法人さんから提出された年次報告について、農地適格法人の要件に適合するかの確認を行いましたので、その結果について報告するものです。

確認対象の法人は59法人おります。詳しくは資料の39ページ、40ページにてご確認をお願いいたします。

これらの法人から事業終了年度3か月以内に事務局に報告書をご提出いただきまして、毎年度、農地所有適格法人の要件を満たしているかの確認をしております。

期限を経過しても報告のない法人が一定数おりましたので、報告依頼として提出していただくように指導してまいりました。

農地所有適格法人の要件は、具体的に農地法の2条第3項に規定されているもので、36ページの5番、参考に記載がございます。

5番の(1)、要件の中に4つありますア、法人形態要件、イ、事業要件、ウとエの構成員要件、オの業務執行役員要件です。法人が農地を所有する間は、これらの要件は継続して満たすように定められておりますので、毎年報告書の提出を受けて、要件を確認しております。

3番の令和6年度の提出の中の確認結果ですが、全59法人中55法人が農地所有適格法人に求められる要件に適合していることが確認できました。適合が確認できていない4法人については、いまだ提出がありませんので、今後も引き続き報告書の提出を指導するようにしてまいります。

なお、〇〇さんは、令和6年9月に農地所有適格法人となりましたので、報告書の提出期限がまだ来ておりません。次回の報告の際に確認することとなります。

簡単ではございますが、今年度の農地所有適格法人の要件の確認につきましては以上でございます。よろしくをお願いいたします。

議長

ありがとうございました。

ただいま説明がありました。
質問、ご意見等ありましたら、お願いします。
塩原さん。

塩原（俊）農業委員 すみません、この報告書の未提出の法人に対して、引き続き報告書の提出を指導していますということなんですけれども、それが出てくれば、当然適格要件の適格するということで丸になると思うんですけれども、未提出だった場合には、この適格法人から外れるということですか。

議 長 丸山さん、いいですか。

丸山事務員 ありがとうございます。
すぐというわけではなくて、こちらから何度か報告書の提出を通知やお電話、必要があれば、法人さんのところに行って、まず報告書の提出を督促して、この報告書の提出をお願いして、すぐには適格法人から除外をするというわけではなく、そういう形で、できるだけ適格法人であっていただきたいので、何度か督促をしていきたいという考えでいます。

議 長 塩原委員。どうぞ。

塩原（俊）農業委員 実は、39ページの33番、〇〇、この法人は和田の中にも相当農地を借りて耕作しているんですよ。それで、この法人が適格法人から外れちゃうと、和田のほうの農地がどうなっちゃうのかなということで、ちょっと心配しているんですけれども、そういうことにならないように督促をお願いして、提出してもらおうようにお願いしたいと思います。

議 長 丸山さん、そのとおりなんですか。

丸山事務員 通知でも督促いたしますし、お電話でも直接報告書の提出をお願いし、今後も、もし必要あれば、〇〇さんのほうに訪問して、報告書を書いていただくようになっていうふうに指導していきたいと思います。よろしく申し上げます。

議 長 小林さん。

小林農業委員 その農地適格法人というのは、農地を利用権設定して借りる分には、適格法人じゃなくてもいいわけだね。ただ、所有権移転で取得する場合は、適格法人じゃなきゃ駄目だということで、〇〇の場合は、多分和田のあれ、外れても耕作はできるわけだね。

議 長 そこまでいいですか。
適格化法人じゃなくても、利用権の設定は可能かどうか。

小林農業委員 可能だよな。

議 長 可能。

丸山事務員 可能です、はい。

適格法人でなくても、それ以外の法人であっても、貸借であれば、ほかの法人さんでも可能なんですけれども、しっかり地域との調和を考えて、地域の保全管理もそうですし、地域の農業の活性にも担っていただけるようになってというような要件もあるんですけれども、適格法人にならずとも、農地の貸借のみであれば、一般の法人でも可能です。

議 長 いいですか。

小林農業委員 和田でネギ作っているのもそうだよな。

議 長 いいですか。法的にはそういうことで確認ということです。ただし、親切なんだよね、基本的には。もちろん農地荒らしてはいないし、そういうことで、ほったらかしにされないように。だで、今、丸山さんもそうだけれども、それぞれ現実にやっている皆さんは、書類出てないが、書類出してくれと、そういう働きかけをしています。

本来、許可権者なり我々の立場として、そこまで親切なのが本来の姿かというのは多少疑問があるけれども、荒廃農地とか、今のそういう関係の中で、できるだけ大事に使っていて、地域と一緒にやってもらいたいということの中から、事務局の判断というか、我々の1つの判断として、書類出してもらえるよう、正当なポジションの中でお願いしているということです。

塩原さん。

塩原（秀）農業委員 農事組合法人は農業をやる法人ということだから、農地の貸し借りも売買もできると思うんですけれども、ここに適格がついた場合は、どこが違うんだ。農事法人と適格農事法人の違いを教えてください。

議 長 いい。

梓川の農業委員が答えます。

倉科農業委員 すみません、僭越ですが、いわゆる今、農地所有適格法人というのは、法改正前は農業生産法人という名前だったんです。名は体を表すということで、農地を所有することができる法人については、農地所有適格法人っていうふうにな名前が変わったっていうのが経過です。

ですので、先ほどから議論ありますとおり、一般の会社であっても、農地をリース方式なり利用権設定なりで借りて営農することは、どんな法人さ

んでも基本的には可能です。農地所有適格法人は、農地を会社が持つことができるっていうふうに単純にご理解いただければいいかと思います。

以上です。

議 長 県のそういう立場にいた人にアドバイスをいただきました。
いいですか、そういうくくり方で。

丸山事務員 はい。

議 長 いいですか、塩原さん。

塩原（秀）農業委員 はい、分かりました。ありがとうございました。

議 長 ほかに。松尾さん。

松尾農業委員 単純な質問ですけれども、集積は、これはここに書いてない農業法人いますよね。それは入るんですか、集積に。入らないんですか。これに基づいて集積しているんですか。

議 長 それ、また担い手とかそういう問題……

草田係長 集積につきましては、認定農業者、認定新規就農者、集落営農組織などということになってきますので、その農地所有適格法人が認定農業者であれば、集積に関わってくるということになります。

松尾農業委員 はい、分かりました。ありがとうございました。

議 長 ほかに。
よろしいですかね。

[質問、意見なし]

議 長 それでは、本件については、ただいまの説明のとおりでありますので、ご承知おきをお願いいたします。

次に、報告事項のウ、令和7年度農業委員会行事予定（案）についてを議題といたします。

事務局の説明をお願いいたします。

草田係長。

草田係長 資料の41ページお願いします。

要旨ですが、令和7年2月時点における来年度の松本市農業委員会の全体行事予定（案）について報告をします。

2番の主な行事予定です。

定例総会ですが、4月、5月、7月、8月、9月、10月、1月、3月の総会には、農業委員のほか、推進委員の方にも出席をしていただきたいと思います。

4月につきましては、年間の業務報告と業務計画案を審議いただきますので、出席をいただきたいと思います。

5月は、最適化活動の点検評価がございます。

7月につきましては、今度10月に市長への意見書を提出する予定ですが、その前に何度か推進委員さんの皆さんにもご意見をいただきたいと思いますので、こちらで意見書の案の提出して、意見をいただければと今の段階では考えています。

8月につきましては、移動農業委員会を予定しております。

9月に先ほど申し上げた意見書の決定をしたいと思っています。

10月ですが、11月に意見書の市長との懇談会があります。その前の月ということで、打合せも含めてお越しいただきたいと思っています。

1月ですが、新年会を予定しています。

3月は、最適化の目標がございますので、こちらについて審議いただきたいと思います。

(2)番、先ほど申し上げましたが、松本市農業施策に関する意見書ということで、10月3日金曜日に市長へ意見書を提出する予定になっています。

また、市長との懇談会につきましては、11月7日金曜日を予定していますので、お願いいたします。

(3)番、ブロック別研修会についてですが、例年8月頃に行われる利用状況調査の前に、タブレットの操作方法について研修を予定しています。

3のブロック活動については、新年度の活動内容について、現在、ブロック長を通じて取りまとめをお願いしています。各ブロック長の方は、3月の総会までに計画書の提出をお願いいたします。

4番、その他ですが、先ほども農政課のほうから説明がありましたが、農地の利用権設定の窓口業務について、来年度から農業委員会事務局で行います。これにより、農地法第3条のものと手続が一体化されて、申請先が分かりやすくなるというものです。

なお、これまで相対契約で行っていた農地の利用権設定は、4月から利用できなくなり、中間管理事業または農地法第3条の許可による手続になります。この変更に伴って、作成する書類は変わりますが、相談窓口や手続の流れについては、これまでと大きく変わらない予定になっています。また、詳細につきましては、来月の総会でご案内をいたします。

5番、7年度の行事予定(案)についてですが、42ページ、43ページになります。

一番近いところだと、4月16日に松塩筑安曇農業委員会協議会定例総会があります。協議会の代議員の方、役員の方、ブロック長、各種団体の代表という古畑委員になりますが、予定お願いいたします。

先ほど申し上げましたが、10月3日に農業施策に関する意見書を市長に提出します。役員の方は予定をお願いします。

11月7日、提出した意見書の内容について、市長と懇談会をお願いします。農業委員、推進委員の皆様、予定をお願いいたします。

続いて、43ページ、定例総会等の開催予定（案）になります。

4月30日の定例総会の後に懇親会を予定しています。市長、議長、委員長の方にも出席をお願いする予定です。多くの委員の皆様の参加をお願いいたします。

8月28日ですが、移動農業委員会を予定しています。今年度は委員の改選があったため行いませんでしたが、例年、市役所本庁舎を離れて定例総会を開催しています。昨年度、令和5年度ですが、四賀地区で行い、その際、梶原推進委員の圃場を視察させていただきました。来年度の移動農業委員会につきましては、また改めてご案内したいと思います。

以上になります。

議長

ありがとうございました。
ただいま事務局から説明がありました。
発言のある方はお願いいたします。

[質問、意見なし]

議長

よろしいですか。
こういった方向に進みたいと思いますので、いろいろ行事立て込んでおりましたりしますが、何分ご協力をお願いします。
なければ、本件はただいま説明のとおりご承知おきをお願いいたします。
次に、報告事項のエ、主要会務報告並びに当面の予定についてを議題いたします。
事務局の説明をお願いいたします。
草田係長。

草田係長

44ページをお願いします。
主要会務報告です。
2月3日から4日、神奈川県へ県外視察研修として、農業委員15名、推進委員4名の方に参加をしていただきました。
2月12日、長野県農業会議正副会長会議に会長に出席をしていただきました。
2月17日、農業活性化推進研修会に委員と推進委員の方に出席をしていただきました。
2月20日、長野県農業委員会女性協議会役員会及び研修会に二村委員に出席をしていただいております。
2月21日、農地転用現地調査に矢嶋委員と細江委員に対応していただいております。

2月21日、役員会を開催いたしました。

2月27日、JAあづみ組合員代表者集会に会長に出席をしていただきました。

本日は、総会となっています。この後、各委員会が行われますので、所属委員の方は出席をお願いいたします。

次のページ、当面の予定になります。

まず、こちらに記載がありませんが、3月5日に女性の農業委員会活動推進シンポジウムが東京都であり、二村委員に出席をしていただく予定です。

続きまして、3月11日、農業活性化シンポジウムが音楽文化ホールで開催されます。この後、河西委員長から説明をしていただく予定です。

3月13日、長野県農業委員会女性協議会松本支部研修会があります。既にご案内をしております。出席される方はよろしくをお願いいたします。

3月18日、中信平右岸土地改良区60周年記念式典に会長に出席をしていただきます。

19日、松塩筑安曇農業委員会協議会正副会長会議に会長に出席をしていただきます。

21日、農地転用現地調査は、塩原俊昭委員と松尾委員です。よろしくお願いいたします。

26日に長野県農業会議第10回臨時総会に会長出席していただきます。

3月の定例総会ですが、3月27日ですので、よろしくお願いいたします。

以上です。

議 長

ご苦労さまでした。

何か委員の皆さんで質問、意見等あったら、お願いいたします。

[質問、意見なし]

議 長

なければ、本件はただいまの説明のとおりなので、ご承知おき願います。

以上で報告事項は終了しました。

続きまして、その他の項目に入ります。

農業活性化シンポジウムについて、河西委員長から説明をしていただきます。

河西情報・研修委員長 皆さんにお手元にチラシがあるかと思うのですが、ご覧ください。

それをちょっと見ていただきたいと思います。農業委員さんの人ですね。

農業委員会主催で農業委員さん、推進委員さんに出席いただいて、「松本市の農業の未来を語る会」と題しまして行います。

これは先月の総会でもちょっと説明させていただきましたが、発表者の方々の内容が現在、上がってきています。どの方もすばらしい内容で、発表に関しては、いいものができるかと確認しているところです。

ただ、それを聞く人がいないと、どんなにいい発表でも意味がないというところがあります。前段挨拶で会長もおっしゃいましたけれども、どなた

か、じゃ行こうかなっていうときになったら、近くの方でも、農業者の方でも結構です。農業やってない方でも結構です。一緒にちょっと楽しみながら参加してみようかという感じでも大丈夫です。もし開始時間等合わなければ、遅れてでも大丈夫です。このチラシには書いてないのですが、事前予約しなくても大丈夫です。

このチラシをお配りいただく際に、当日参加でも大丈夫だよって一言を一言申し添えていただければと思います。

この語る会をぜひ盛況にしたいと思いますので、皆さんのご協力をよろしくお願いいたします。

議 長

そういうことですので、趣旨をご理解していただくということを念頭にしておりますので、お願いします。

続きまして、農業農村支援センターから情報提供をお願いします。

山戸さん。

山戸(松本農業農村支援センター)主査 皆様、大変お世話になっております。松本農業農村支援センターの山戸と申します。よろしくお願ひいたします。

情報提供なんですけれども、2枚の紙が松本農業委員会定例総会資料というのであるかと思うんですけれども、こちらを見てください。

1枚目に概要を後ろにつけてあるものの話を書いてあるんですけれども、1つ目は、向こう3か月の天候の見通しということで記載しております。最近少し暑くなっているところがあるかと思うんですが、気温の変動、まだ激しいところであるんですが、一応3か月予報では高い見込みというふうになっております。降水量に関しては、平年並みの見込みということになっておりますので、よろしくお願ひします。

2の春の用水の確保見込みについてというところなんですけれども、昨年、おとしとちょっと用水が少ないということで、今年もちょっと不安に思っている方もおられるということで、中信平の土地改良地区にダムの貯水状況ということで確認させていただきまして、現在、貯水率が78%ということで、平年が87%なので、少し少ないと感じるところかと思いますが、気温が低く、雪解けが平年より遅くなっているためということでした。積雪に関しては、昨年の2倍、おとしの3倍あるということですので、気温が高くなってきましたら、雪が解けることで貯水率が上がると予想されますので、昨年、おとしのような心配は大丈夫かなというふうに見ただけであればと思います。

3つ目なんですけれども、後ろに案内つけてあるんですが、緑肥作物による風食防止対策技術者研修会というものが来週の3月5日に朝日村を会場して行われます。松本の南西部地域農地風食防止対策協議会ということで、松本市のほうも協議会のメンバーに入っているところではあります。風食防止対策として、ライ麦ですとかをこれまでやっていただいていたかと思うんですけれども、それに代わるヘアリーベッチ、ハゼリソウといった新たな緑肥作物ですかね。こちら、減肥の効果とかもあるものも

あるので、そちらに関するお話ですとかをさせていただきます。取組拡大のために、農業者の皆様を対象とした研修会ということなので、まだまだ参加いただけるような枠がありますので、ぜひともお申込みいただければと思います。

最後、失礼しました。3番になっていますね。4つ目なんですけれども、長野県で独自に作成する「信州の地域に広がる有機農業スタートブック（案）」についてということなんですけれども、こちらは有機農業を効果的に推進するためには、生産者と消費者が両方有機農業の価値を共有していくことが大切ということで、こちら、参加型認証というふうな書き方をしているんですけれども、地域と生産者の関わりをつなげるための取組をしていこうというようなスタンスで書かれているものになります。取組のためにどういったポイントが必要かということをもとに作成してまとめたものが、この有機農業スタートブック（案）ということで記載されておりますので、ちょっと興味ある方はぜひ見ていただいて、ご意見、ここの部分が分かりにくいですとか、こうしたほうが良いといった意見をお返しいただければと思います。

注意事項なんですけれども、電話ですとか口頭での意見は、ちょっと受け付けてないということです。申し訳ありませんが、メールですとかファクス、ウェブですとか、はがきという形で対応していただければと思います。よろしくお願いいたします。

あと、こちらには記載されていないんですけれども、最近また野焼きですとか、あぜの草の焼くの、スタートしているかと思うんですけれども、風の強い日ですとか、ぜひとも注意、風の強い日はやらないよということですね。本日の午前中も、ちょっと服穴空いちゃったよという笑話を聞いたところだったんですけれども、その程度ならいいんですけれども、事故ですとかあると大変ですので、そういうところを注意していただくように、皆様、よろしくお願いいたします。

以上となります。

議 長

ありがとうございました。

この件、何かありますか。

上條信太郎委員、コメントは、30秒、それじゃ。

上條農業委員

水が今、出てないという話がありましたけれども、本当に寒くて、例年だと、今頃、梓川水系に流入量は11トン、毎秒11トンなんですけれども、今のところ、その半分の5トン台というところでもあります。

あとは、ここに資料にあるとおりでありまして、春先の田植には、もう全然心配ないということで、おとといも中信平の総会では報告したところがあります。

秋については、例年どおり、どうなるか分かりませんので、5%の取水制限を実施していくということで、ダムのほうにその分だけ残しておくという、そういう方針であります。

以上です。

議長

ありがとうございました。
続きまして、事務局から連絡事項をお願いします。
草田係長。

草田係長

お願いします。
この後、農業振興委員会を視聴覚室、情報・研修委員会を音楽室で行う予定です。こちらの会場につきましては、総会終わり次第、片づけを行いますので、各委員会のほうには速やかに移動をお願いいたします。
また、本日、当日配付ということで、「信頼される農業委員会であるために」という資料を配付してあります。今後の委員会の活動をしていく際に注意していただく事項を記載してありますので、ご一読をお願いいたします。
それと、県外視察研修の会計報告をお願いします。

上條局長補佐

情報・研修委員会の事務局をしている上條です。
情報・研修委員会の事業の1つである県外視察研修の会計報告ということで、今日、皆様方の机に1枚物で会計報告を置いてありますので、説明させていただきます。
期日ですけれども、先ほども主要会務報告でありました2月3日から4日の1泊2日、横浜市にあります根っこ塾と横須賀のすかなごっそという大型直売所施設に職員2名含めて21名で視察に行っていました。
4番目の収支ですけれども、ここにはバスの借上げがございませんけれども、バスの借上げも別途でもう支払いしてありますので、皆様方からの収入、費用弁償と職員の普通旅費の金額から今回支出した分、ホテル代と旅行会社に支払った分等を差し引きますと、14万1,466円、不足となりました。5番目の不足金への充当ということで、職員も含めて21名、6,736円をまた報酬のほうから差し引かせていただきながら、差金は職員が10円負担するような形で合わせていきたいと思っております。
1週間以内に、欠席された4名の方はキャンセル料がかかりますので、ここには記載されておりませんが、また別途計算して、報酬のほうから差引きをさせていただきたいと思っております。
こちらの視察研修も活動実績となりますので、出席された方は活動実績としてください。また先ほど河西委員長が言われたように、農業活性化シンポジウムも活動実績となりますので、ぜひ知人の方にチラシを配って周知を図ったというのも1日の実績になりますし、当日、シンポジウムに参加したことも実績となりますので、ぜひ皆さん、20枚ほど皆様方にカラーコピーのものは渡してありますので、知人などにお配りいただいて、多くの方に予約なしでも来ていただけるように、小ホールのほうにご案内いただければと思います。
以上で視察研修の会計報告を終わらせていただきます。

草田係長 本日配付した追加資料などは、各地区でお持ちいただき、会議結果と併せて欠席委員におつなぎいただけると助かります。
また、該当地区の委員に事前にお送りしました農地法申請書類の原本ですが、机の上にそのまま置いてお帰りください。
以上です。

議 長 ありがとうございます。
その他、全体を通じまして委員の皆さん、何かこの機会、発言在りましたら、お願いします。

[質問、意見なし]

議 長 以上で本日の案件は終了いたしました。
円滑な議事進行にご協力ありがとうございました。
議長を退任させていただきます。

14 閉 会

以上この議事録が正確であることを証します。

松本市農業委員会

農業委員会会長 _____

議事録署名人 16番 _____

議事録署名人 17番 _____